

## 将来の学校のあり方について ～現在そして未来の学校の方向性～

### 1 学校再編を検討するにあたって

#### 学校再編とは・・・

##### 【考え方】

それぞれの学校が培ってきた歴史や伝統を引き継ぎ、新しい学校としてスタートする。

##### 【校名・校歌・校章・制服等】

新しい学校づくりをしていくため、校名等について、開校準備協議会で一から検討する。

##### 【教育内容】

それぞれの学校の特色ある教育内容、教育活動を引き継いだ新たな教育課程を編成する。

#### 統廃合とは・・・

##### 【考え方】

規模の小さい学校を廃校し、大きい学校に吸収する。

##### 【校名・校歌・校章・制服等】

統合先の学校の校名等を使用する。

##### 【教育内容】

統合先の学校の教育内容を基本とする。

出典：福山市ホームページ参照

### 2 学校施設を取り巻く今日的な課題

学校施設の老朽化

児童生徒数の減少

教育内容の多様化

感染症への対応

機器・教材の充実

生活空間としての充実

地域コミュニティ施設としての充実

など



学校施設の老朽化、児童生徒の減少、ICT教育や英語教育など教育内容の多様化や新型コロナウイルス感染症などの環境の変化等、さまざまなニーズに対応できる充実した新しい学校施設が必要 ⇒ 学校再編の必要性

学校施設再編基本計画策定委員会では・・・

現在、そして将来(20年後)の子どもたちが学び、生活する教育環境の充実と地域コミュニティの核としての役割、機能の充実に向けた方向性を検討する。



### 学校施設再編基本計画（学校施設整備方針）

#### 3 学校施設再編基本計画策定に向けた基本的な考え（学校施設整備方針）

(1) 地域の実情に適した将来に渡って持続可能な学校規模

(2) 地域の実情に適した学校施設の配置

(3) 地域コミュニティの核としての施設の充実

(4) 多様なニーズに対応できる施設の充実

#### 4 学校再編の取組

学校施設整備方針



学校再編



新しい施設(設備)・教育機器の充実



子育て・教育環境の充実（若い世代の定住）



通いたい学校・行かせたい学校・働きたい学校



学校施設の統廃合ではなく、まちのシンボルとなる新しい学校、地域コミュニティとしての施設の充実を目指した新しい未来の学校施設をつくるための再編

## ■新しい学校づくりが目指すべきところは

子供たちが通いたい学校、保護者が通わせたい学校、教職員が働きたい学校

そのために、まず・・・

学校施設再編基本計画策定に向けた基本的な考え（学校施設整備方針）

(1) 地域の実情に適した将来に渡って持続可能な学校規模

(2) 地域の実情に適した学校施設の配置

## ■事例紹介

### ○香春町立香春思永館

- ・ 町立4小学校、2中学校を統合して令和3年4月に開校した9年生の義務教育学校。  
（施設一体型）勾金中学校地に建設。
- ・ 9年間の教育課程は自由に設定できるが、香春町では1から6年生を前期課程（小学校相当）、7から9年生を後期課程（中学校相当）として設定。
- ・ 前期課程児童数 484 人（15 学級）、後期課程生徒数 210 人（7 学級）  
特別支援学級 36 人（9 学級）
- ・ 教職員：校長 1 人、副校長 1 人、教頭 2 人  
教諭、養護教諭、事務職員等を含めると、60 から 70 人規模
- ・ 通学手段：徒歩、自転車、スクールバス（マイクロバス 26 人乗り 9 台）
- ・ 学校敷地面積：3,7764.65 m<sup>2</sup>、延床面積：12,145.60 m<sup>2</sup>

【保護者説明会資料 令和2年10月～11月参照】



香春町立香春思永館（R3年8月4日）